



持続可能な社会

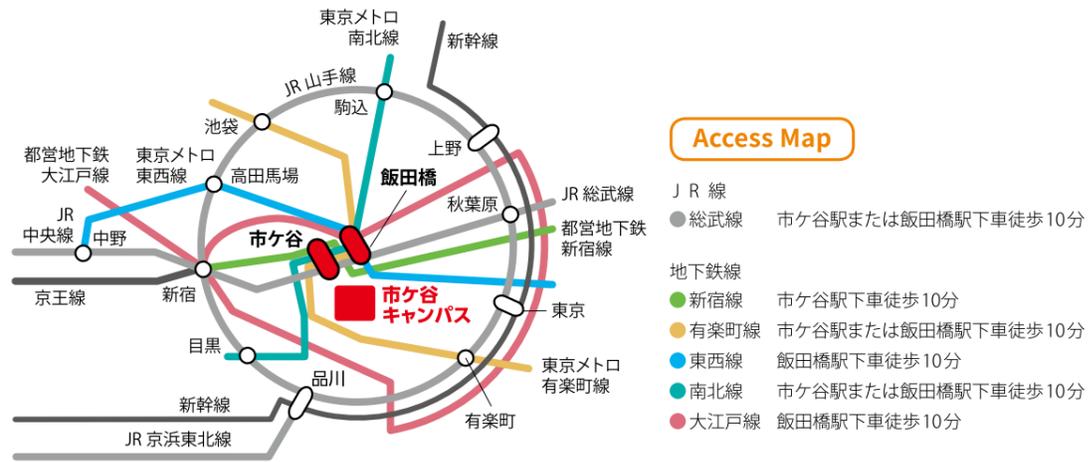
人も自然も大切にしながら、
みんなで今を生きて、未来を考える



自由と進歩
法政大学

2017
人間環境学部

人間 環境 学部 Faculty of Humanity and Environment



この地球全てがあなたのキャンパス



グリーン・ユニバーシティをめざして
法政大学では1999年3月人間環境学部の創設と同時に「環境憲章」を制定し、持続可能な社会の実現をめざす「グリーン・ユニバーシティ」宣言をしました。1999年9月に総合大学としては日本で初めてとなる「ISO14001」（環境マネジメントシステムの国際規格）の認証を取得し、大学の環境改善活動を開始し、環境教育の推進、ゴミの削減・省資源・省エネルギーを継続して実行しています。人間環境学部ではこの環境マネジメントシステムについて学ぶ講義も設けています。

自由と進歩
法政大学人間環境学部

市ヶ谷キャンパス
〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
TEL. 03-3264-9327 <http://www.hosei.ac.jp/ningenkanyo/>

法政大学 人間環境学部 検索



自由を生き抜く実践知

フィールドスタディ

フィールドスタディ(現地学習)は、キャンパスを飛び出して現地を訪問し、そこでの体験や、さまざまな取組みを行っている人との意見交換などを通して、自らの問題意識を高めることを目的とした科目です。まちづくり、国際協力、エネルギー問題、企業活動など、国内外あわせて毎年約20コースが実施されています。教室での学習に加え、五感を駆使して得ることができる多くの知識と経験は、将来皆さんにとって有意義なものになるでしょう。

▷ 詳しい情報はフィールドスタディカタログをご覧ください

ハワイ

ハワイの文化と自然保護、農業・エネルギーなどについて学習し、「観光では決してわからないハワイ」を体感し、島の持続可能性を考えました。また、英語によるコミュニケーションを実践的に学びました。



オーストラリア

オーストラリア人家庭にホームステイしながら大学付属の学校で英語を学び、それを実践する形で3カ所を訪問し、オーストラリアの自然環境および保護について学びました。



ドイツ

2015年はドイツ統一25周年でした。すでに消滅した社会主義国・東ドイツの痕跡と、統一後の変化の軌跡をたどって、ドイツ東部地域を回りました。



スリランカ

発展途上国スリランカでは、2004年のインド洋津波と東日本大震災、二つの被災地の現況を比較しつつ学ぶと共に、開発と生物多様性保全のバランスについて考えました。



「世界文化遺産シギリヤロック(スリランカ)」

Field Study

国内

地域を再発見する 学びの旅へ



「相倉の合掌造り集落(富山県五箇山)」



富山県 南砺市・富山市

SCOT(Suzuki Company of Toga)の活動拠点である富山県南砺市を訪問しました。サマーフェスティバルでの演劇鑑賞の他、当地の風土をパノラマ的に理解するため、相倉・菅沼の合掌集落がある五箇山、砺波の散居村、ねいの里自然博物館などを訪れ、視野の広い現地学習を行いました。



東京都

東京とその近郊の浄水場、下水処理場、清掃工場、廃棄物処分の現場を見学しました。小学校で見学した人もいるのですが、大学で得た知識をもってもう一度見直しました。



青森県

津軽地方 弘前地方

りんご生産量が日本一である青森県で、津軽地方や弘前市の歴史・文化などの学習や、りんご産業に関する現地の農家、加工、流通・販売業者などでの見学および調査に基づいて、「りんご産業の活性化策」を検討しました。

長野県 飯田市

市民や行政の熱心なまちづくり運動を、人形劇や講義などを通し肌身で学習することができました。地方都市の魅力ある豊かな文化や自然は、将来のライフスタイルを考える基軸になりそうです。



2015年度 人間環境学部 フィールドスタディ実施一覧

テーマ	実施場所
国内	
環境と文化の都市・飯田のまちづくり、地域の伝統芸能と社会	長野県飯田市(中心市街地および郊外山間部)並びに妻籠ほか
地域特性を活かしたビジネスモデルを学ぶ —青森県津軽地方のりんご産業を中心として	青森県津軽地方: 青森県中津軽郡八戸市(弘前市)、弘前市役所、弘前市りんご公園、弘果弘前中央青果(株)ほか
巨大エネルギー施設と大自然:黒部ダム	神奈川県、長野県、富山県
東京一歩散歩	東京23区内
国立公園の魅力を支える地域活動にふれる —北海道サロベツ湿原と利尻島を訪ねて	北海道:利尻礼文サロベツ国立公園(サロベツ湿原、利尻島ほか)
吉川FS、ブナの森から農業と農村を考える	新潟県上越市吉川区全域
科学博物館で学ぶ	国立科学博物館(東京)ほか
歴史的環境の保全を考える	神奈川県小田原市・箱根町、埼玉県川越市ほか
わが国産業革命期(明治期)の企業活動と市民生活～天ぶら油りサイクル燃料バスで行くフィールドスタディ～	栃木県、群馬県、埼玉県
環境インフラ	東京都新宿区・江東区・葛飾区、埼玉県久喜市
演劇ワークショップ:「スズキ・トレーニング・メソッド」を学ぶ	ワークショップ実施場所:芸能花伝舎(新宿) 観劇場所:吉祥寺シアター
SCOT(Suzuki Company of Toga)の演劇とその背景:富山の文化と自然を学ぶ	富山県南砺市・富山市
障害者福祉の体験	群馬県安中市 ゆきわりそうの山荘
伊豆大島の魅力発見 ～フィールドワーク始め～	伊豆大島
湾岸がささえる都市の環境 —エネルギー・廃棄物・リサイクル—	東京都江東区、神奈川県横浜市・川崎市
被災地のレジリエンス形成に向けての支援活動	宮城県石巻市北上町
石垣島・白保におけるサンゴ礁文化継承のとりくみを学ぶ	沖縄県石垣島、白保集落
津軽半島をむすぶまちづくり	青森県五所川原市・中泊町・つがる市ほか

海外	
開発途上国における持続可能性を考える—被災からの復興と生態系保全—	スリランカ民主主義共和国(コロンボ、ゴール、キャンディ)
島のサステナビリティとハイアンスターディーズ	米国ハワイ州・オアフ島全域
フィールドスタディ・イン・オーストラリア:英語と自然環境保護を学ぶ	オーストラリア:クィーンズランド州ゴールドコースト ボンド大学付属語学学校(Bond University English Language Institute (BUELI))
ドイツ再統一25周年・ドイツ東部地域のくらしと自然	ドイツ連邦共和国(東部)

ゼミナール

少人数でのびやかにテーマを掘り下げる

2年生から履修できるゼミ（研究会）は、コース制の学びの中心です。各教員の専門分野に応じて、多彩なテーマのゼミが少人数制で開かれます。学生は各自の興味関心にあったゼミを選び、学びの軸を定めて研究し、卒業後の進路選択につなげます。ゼミには、3年間継続するAゼミと、1年間単位でも参加できるBゼミがあります。

人環らしい多彩なゼミ、詳しくはHPで



小島ゼミ

人間環境学部において持続可能な社会の探究は、グローバルなレベルでもローカルなレベルでも重要です。私自身は自治体の公共政策が専門ですが、ゼミでは、「持続可能な地域社会の創造」について、市民、自治体、NPO、事業者などの多様な主体の役割やパートナーシップと

いう視点から、高度なアクティブ・ラーニング（能動的学習）に取り組んでいます。具体的には、地域社会と連携しながら、持続可能性に関する地域課題について調査研究と実践活動の企画運営を往復する、PBL（問題発見・問題解決型学習）＝「書を持ってまちに出る」チャレンジを

展開しています。また「教えることは学ぶこと」にもつながりますので環境教育活動にも取り組んでいます。特に2006年から10年間、長野県飯山市で、地域学の場を創造するために、市民や様々な主体を少しずつ巻き込みながら開催してきた「学びの里サマーカレッジ」は、まさに「継続

は力なり」という言葉があてはまると思います。これからも、地域のソーシャル・イノベーションに貢献することをミッションとするNPOと同じスタンスで、チームとして社会にかかわりながら、学生たちも様々な能力を高め、ともに成長していくことをめざしていきます。



宮川ゼミ

明るく自由な雰囲気の中、健康・医療関連のテーマについて幅広く学んでいます。学生は自主的にテーマを選択し、調査、研究発表を行うことにより健康に生きていくための知識を身につけます。また、毎回発表の後に活発な討論が行われ、コミュニケーション力、発言力を磨いています。



長谷川ゼミ

長谷川ゼミでは理想の企業とは何かを探求しています。文献研究や企業訪問を通じて、企業の実態や社会的責任を学び論文を執筆しています。ゼミの成果を世に問うため学内外のコンテストにもチャレンジしています。知識を知恵に変える体験を通じ、社会に貢献できる人間力の涵養を目指します。



板橋ゼミ

美術・デザインはそれぞれの時代の社会状況や異文化接触と分かちがたく結びつきながら変遷を遂げてきました。このゼミでは、そのような美術・デザインを通して見えてくる人々の営みや異文化交流の歴史をたどることで、現在の私たちをとりまく世界を新たな視点からとらえなおすことを目指します。



武貞ゼミ

途上国の貧困、環境問題、支援を課題に、環境と開発のバランス、持続可能な社会の姿について考える研究会です。グループディスカッションを通じて、新しい社会をつくりあげるための知力、想像力、心の体力、自らの思いを届ける力、そして人の声を聴く力を養うことを目指します。

学生からのメッセージ

大学では様々な人やモノとの素晴らしい出会いがあり、きっと熱中できることに巡り合えるはずですよ！今は勉強や部活で忙しく大変だと思いますが、大学生の自分を想像しながら日々の勉強や部活を頑張ってください！



宮川ゼミ4年 相馬史也さん

研究会のテーマ（企業の社会的責任）について、同じ目標を持つ仲間と議論を重ねることで、大学における学びの軸ができました。企業やシンクタンクへの訪問を通して、多様なアイデアを一つのストーリーにまとめることの難しさと重要性を学んでいます。



長谷川ゼミ4年 福屋実希子さん

多様性に溢れるゼミ生と学ぶ時間はとても充実しています。事象の「考え方」や問題解決への「手段と目的」、そもそも「問題」の捉え方は価値観や背景で変わることが常に意識できるようになり、ゼミや途上国だけでなくあらゆる場で活かせる糧になっています。



武貞ゼミ4年 山崎ひかりさん

芸術作品の中には、鑑賞者に価値の判断を任せ、鑑賞者自身にその作品に関わることを求めるものがあります。大学生生活もいろいろなことが起こります。是非ともそれらに自分だけの価値を与え、多くの関わりと興味を持ってください！



板橋ゼミ4年 藤江翼さん

教授陣からのメッセージ

幅広い学びを支える、多彩な顔ぶれ

私たちの学部の最大の特色は、社会科学・人文科学・自然科学にわたる幅広い科目の広がりです。多様な学びを支える教員たちをメッセージとともに紹介します。

講義紹介 日本環境史論

人と自然との関係や、都市空間で引き起こる環境問題を歴史的に究明するためには、その事実関係を知るとともに、人の暮らしや文化を含めたさまざまな歴史を理解する必要があります。人は自然とどのようにかかわり、都市問題とはどのように向き合ってきたのかなど、先人の知恵を探求し、環境とのかかわりを考えていきます。



 <p>環境健康論 スポーツ総合演習 スポーツ科学</p> <p>Chance favors the prepared minds ... Louis Pasteur</p> <p>朝比奈 茂</p>	 <p>地域形成論 地域経済論 都市環境論</p> <p>書を持って 街に出よう</p> <p>石神 隆</p>	 <p>西洋美術史論 英語 TOEIC Oral Communication テーマ別英語 1</p> <p>多様な文化と ものの見方を知ろう</p> <p>板橋 美也</p>	 <p>国際法 国際環境法 国際関係論</p> <p>はばだけ!</p> <p>岡松 暁子</p>	 <p>フランス語視聴覚 フランス語 フランス語の世界 人間環境特論(西洋社会思想史)</p> <p>他者と出会うこと、 他者と出会い直すこと</p> <p>竹本 研史</p>	 <p>現代社会論 フィールド調査論</p> <p>好奇心こそ 学問の始まり</p> <p>田中 勉</p>	 <p>地球科学史 科学史</p> <p>科学が捨てた心を 探しに行きましょう。</p> <p>谷本 勉</p>	 <p>ドイツ語 ドイツの芸術 ヨーロッパ環境史論</p> <p>ここがロードス島だ ここで飛べ!</p> <p>辻 英史</p>
 <p>環境表象論 文学</p> <p>海・伝統文化・ 文学・アート 好きな人来たれ!</p> <p>梶 裕史</p>	 <p>経営学入門 環境経営と会計 環境経営論</p> <p>楽しさの「本質」を 見つけてください</p> <p>金藤 正直</p>	 <p>エネルギー論 大気と社会</p> <p>エネルギーは 社会の血液です。</p> <p>北川 徹哉</p>	 <p>環境経済論 国際環境政策</p> <p>Seize the day (いまを大切に!)</p> <p>國則 守生</p>	 <p>環境法 アメリカ法の基礎 アメリカ環境法</p> <p>社会で 生きる学び</p> <p>永野 秀雄</p>	 <p>労働環境論 キャリア入門</p> <p>学校を出てよ、会社を 出でて、そして国を出て、 外の世界を見よう</p> <p>長峰 登記夫</p>	 <p>環境社会論 フィールド調査論</p> <p>「偏ること」を恐れずに 「個」を創ろう</p> <p>西城戸 誠</p>	 <p>日本環境史論 日本史</p> <p>“温故知新”を 体感しましょう</p> <p>根崎 光男</p>
 <p>地方自治論 自治体環境政策論</p> <p>グローバルに 未来を共創しよう</p> <p>小島 聡</p>	 <p>行政法の基礎 環境法 比較環境法 日本公害史と法</p> <p>啖啄同時</p> <p>後藤 彌彦</p>	 <p>自然環境論 自然災害論</p> <p>座学と現場の双方向 フィードバックを!</p> <p>杉戸 信彦</p>	 <p>English グローバル・コミュニケーション</p> <p>自分に関心を持って、 自分のことを知みましょう</p> <p>Stockwell Esther</p>	 <p>CSR論 ビジネスヒストリー 現代企業論</p> <p>意欲×能力× 人柄×健康</p> <p>長谷川 直哉</p>	 <p>日本詩歌の伝統 中国語 文学</p> <p>少年易老 学難成</p> <p>日原 傳</p>	 <p>比較演劇論 英語 TOEIC English through Movies and Drama</p> <p>演劇で、 五感を磨く。</p> <p>平野井 ちえ子</p>	 <p>環境科学 サイエンスカフェ(化学)</p> <p>文系・理系関係なく、 何でも幅広く学びたい人、 待っています。</p> <p>藤倉 良</p>
 <p>仏教思想 環境哲学基礎論 宗教論</p> <p>無用の用</p> <p>関口 和男</p>	 <p>自然環境政策論 自然環境論 サイエンスカフェ(生態学)</p> <p>ケツァールを 見つけてごらん</p> <p>高田 雅之</p>	 <p>環境人類学</p> <p>環境を学ぶことは 人間を学ぶこと</p> <p>高橋 五月</p>	 <p>途上国経済論 国際経済協力論</p> <p>自分の翼を 見つけよう!</p> <p>武貞 稔彦</p>	 <p>気候変動論 天文学 情報処理基礎 ネットワークとマルチメディア</p> <p>パラダイムを 疑おう</p> <p>松本 倫明</p>	 <p>サイエンスカフェ(生物学) 衛生・公衆衛生学</p> <p>老若男女、ともに 学んでいます!</p> <p>宮川 路子</p>	 <p>環境モデル論 サイエンスカフェ(物理学) 統計とデータ分析 情報処理基礎</p> <p>一緒に考えよう!</p> <p>渡邊 誠</p>	



地球市民へのステップアップ

国際社会で力を発揮できる人づくり

グローバルな視野をもって足元の地域（ローカル）と向き合うと同時に、文化や社会の違いを越えて地域と地域をつなぐ視点を、私たちの学部は大切にしています。そのための新たなチャレンジとステップアップの機会を提供し続けます。

キャンパスで学ぶ

NEWS

2016年9月より、英語による講義で学位を取得できる「Sustainability Co-Creation Programme (SCOPE)」を開講します。

SCOPE

■英語学位プログラム(持続可能社会共創プログラム)

スーパーグローバル大学創成支援(SGU)の取り組みとして海外からの留学生、日本人双方を受け入れ、学部でグローバルな環境を生み出し、すべての学部生にとっても共に学び共に創る機会として価値あるプログラムを目指します。

グローバル化する現代社会では、持続可能な社会構築という、予め答えが定められていない問いに取り組むことは、異なる文化や考えを持つ多様な人々と新たな社会の形を共に創る作業と言えます。カリキュラムの中心は、課題先進国としての日本の持続可能性にかかわる経験や知見を学ぶことです。必要な英語力があれば人間環境学部生もSCOPEで提供される英語の講義を受講することが可能です。



SGU

スーパーグローバル大学とは？

卒業後にグローバル社会で活躍できる能力を身につけることのできる大学として、2014年度に文部科学省より全国37大学のひとつとして法政大学が指定されました。人間環境学部は、大学のグローバル化に向けた教育環境整備の中心的役割を担っています。

SCOPEはSGUの力を養うことを目的としています

1 問題把握力

複雑に絡み合う「問題」を読み解き、現実を把握する能力



2 構想力

「問題」解決後の姿を想像し、解決に必要なリソースを特定する構想力



3 コミュニケーション力

全ての過程において人々の協力を得、力を結集して、ともに解決策をつくりあげていくコミュニケーション力



人間環境学部生も利用できる大学の制度として…

ERP

■英語強化プログラム

講師のほとんどがネイティブ・スピーカーの小規模人数授業で、実践的な英語を学ぶことができるプログラムです。就職へ向けたビジネス英語の習得、留学へ向けた英語運用能力の強化、留学後の英語のブラッシュアップなど、様々な活用の仕方ができます。

ESOP

■交換留学生受け入れプログラム

海外の協定大学から来た留学生向けの英語で行われる授業を受講することができます。日本の様々な側面に関する授業を英語で受講することで、英語力を強化するだけでなく、自国の社会や文化について新たな視点から考え直したり、様々な国から来た留学生たちと交流を深めたりすることができます。

人間環境学部では、1年生から受講でき卒業要件に含めることも可能です。

海外で学ぶ

短期語学留学

10日～2週間程度の英語圏への短期語学留学を通して、現地の大学での語学授業、ホームステイ、英語での環境学習・プレゼンテーションなどの様々なアクティビティを経験し、活きた英語に触れることができます。その後の長期留学を視野に入れた第一歩の留学体験として活用することもできます。



ハワイ

実施時期

夏季(9月上旬)の10日～2週間

場所

ハワイ大学(アメリカ・ハワイ)

内容

- ・ハワイ大学カピウラニコミュニティカレッジでの実践的な英語の語学学習
- ・農業、エネルギーなど、ハワイ(オアフ島)のサステナビリティに関する学習
- ・ハワイアンカルチャー、日系人の文化などとサステナビリティの関連性を学ぶ



オーストラリア

実施時期

春季(2月末～3月中旬)の2週間

場所

ボンド大学(オーストラリア・ゴールドコースト)

内容

- ・ボンド大学付属語学学校での実践的な英語の語学学習
- ・オーストラリアの国立自然公園での環境保護に関する学習
- ・オーストラリア人の家族にホームステイし、異文化を体験

海外フィールドスタディ

アジア、ヨーロッパ、オセアニアなど様々な地域に実際に足を運び、日本では知りえないような現地の社会の実情や文化を肌で感じながら学ぶことで、グローバルな視野を身につけることができる多彩なプログラムが用意されています。海外フィールドスタディ奨励金制度(ページ下)により、渡航費の補助を受けることもできます。

【これまでのコース例】

- ・中国：「中国黄河流域の砂漠で地球環境問題を学ぶ」
- ・カンボジア：「開発途上国の人々の暮らしと国際協力の現場を五感で知る」
- ・インド：「開発途上国における生物多様性保全の現場にふれる」
- ・オランダ/ドイツ：「国際平和の追求—国際法の現場を知る—」
- ・ドイツ：「ドイツにおけるまちづくりと環境—住民参加・エネルギー・医療—」

派遣留学(協定校留学)

3・4年次にアメリカ、ヨーロッパ、アジア、オセアニアに多数ある大学の協定校に1年間留学し、派遣先の言語に習熟しながら、自ら選んだ専門分野を現地の大学生と肩を並べて学ぶ留学制度を利用することができます。留学先の学費が免除となり、派遣先に応じた奨学金を受給することができます。また、派遣先の大学で習得した単位は、本学部での承認を得た上で卒業所要単位の一部として認定を受けることが可能です。

【これまでの実績例】

- ・オーストラリア ・オーストリア ・韓国 ・フランス ・ロシア など

参加者メッセージ

ニュースからは気づけないうような途上国の現実やスリランカにおいて津波被災者が本当に必要としている支援は何か考えるなど、有意義な時間を過ごせたフィールドスタディでした。日本とは全く違う国を実際に訪れることで得られる何かがあると思います。

スリランカ
フィールドスタディ参加
松尾紗佑美さん

興味のある韓国の社会や映画について学びつつ、多様なバックグラウンドを持つ学生たちと生活する中で、客観的に「自分」を見つめる機会にもなりました。社会に出る前に、このような経験ができ、とても感謝しています。

韓国
延世大学派遣
菅野莉央さん

英語を学びながら、観光旅行では感じることのできない本来の自然・文化の姿、そして独自のライフスタイルをたどる傍ら、現代の環境諸問題にも目を向けることができました。学部のテーマでもある「持続可能性」を自然・文化の両面で体感できました。

ハワイ
フィールドスタディ参加
今福梨花さん

海外フィールドスタディでは

① 奨励金制度があります

人間環境学部では海外で開催するフィールドスタディにできるだけ多くの学生が参加できるよう、参加者に対し費用の一部を奨励金として支給します。対象となるコースや支給金額等については、募集時に掲示します。

② カーボン・オフセットにとりくんでいます

CO₂削減プロジェクト(省エネ・再エネ・森林管理など)の実施者が、プロジェクトを通じて生みだしたCO₂の削減量や吸収量を「クレジット(例：1t分1,000円など)」として市場で取引することをカーボン・オフセットと言います。海外フィールドスタディでは、往復の飛行機利用に伴うCO₂発生分をクレジット購入して相殺しています。

その先の自分を見つける

多様な学びから探し出す未来—キャリア教育

地域・経済・国際・環境・文化など、それぞれの関心分野を掘り下げ、自分だけの未来を掘り当てていくためのキャリアの積み重ねを支援します。



学習から

右の科目に加えて、人間環境学部の特性を活かした幅広いカリキュラムにより知性と教養を育みながら、実社会とのかかわりを深め実践力を養う独自のキャリア教育を進めています。また、OBOGによる進路相談などの現役生支援も行っています。

学部のキャリア教育科目

- ・キャリア入門
- ・自治体職員ゼミ など

学部の実践的な教育科目

- ・フィールドスタディ (2～5ページ)
- ・ゼミナール (6～7ページ)
- ・人間環境セミナー (19ページ) など

公務員講座

公務人材教育センターが学内全体を対象として、公務員試験のための公務員講座を開講し1年生から受講できます。学部の授業科目と併せることで、公務員への可能性を開いていくことができます。

資格から

取得できる資格

学部では以下の資格を取得する課程を設けています。

- ・図書館司書 ・学校図書館司書教諭
- ・社会教育主事(任用資格) ・博物館学芸員

取得できる教員免許

所定の科目を履修することで以下の教員免許が得られます。

- ・中学校教諭一種(社会)
- ・高等学校教諭一種(公民)
- ・高等学校教諭一種(地理歴史)

学部での横断的な学習成果を生かしてそのほかこんな資格を取る人も

- ・公害防止管理者 ・ECO検定(環境社会検定)
- ・世界遺産検定 ・気象予報士

インターンシップから

在学中に政府や自治体、企業、NPOなどで短期の就業体験をして、社会人の姿や仕事を知ることによってキャリア形成に役立てるインターンシップ制度があります。学部では一定の条件を満たせば単位として認定し、1年生からこのプログラムに参加することができます。

これまでの実績例

- 三井住友海上火災保険(株)
- 株式会社ジェーシービー
- テレビ東京
- 三井住友信託銀行(株)
- 千代田区役所
- 鎌倉市役所



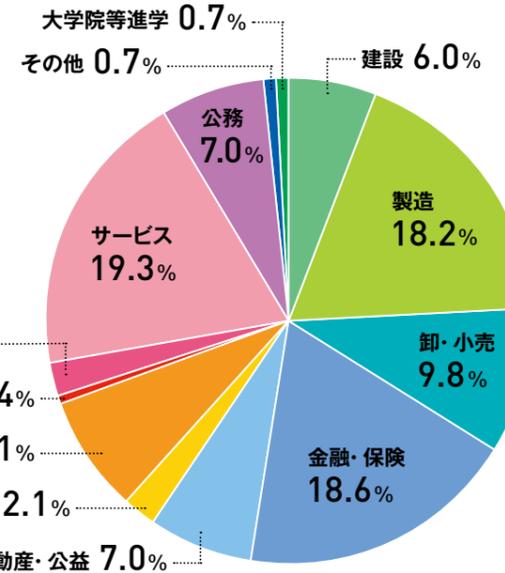
近藤亜紀さん

キャリアセンターによる支援

全ての学生をサポートする大学の組織として、キャリア形成や就職活動に関する説明会、企業紹介、情報提供をはじめ、個別面談による技術指導や就職相談、企業提携型インターンシップなど、1年生から参加できる様々なプログラムを用意しています。

先輩たちが進んだ道

人間環境学部を巣立った卒業生は、学部の幅広い学びを反映して、様々な業種・業界・職種で活躍しており、高い就職率とともに将来の選択肢の広さを物語っています。公務員として地方行政や国政に携わる人が比較的多いのも特徴です。学部で培った問題発見力と解決への構想力、そして実行力は、それぞれの道できっと生かされることでしょう。



【主な就職先一覧】

(株)竹中工務店, 富士重工業(株), 新日鐵住金(株), 富士通(株), 大日本印刷(株), (株)バンダイ, 太平洋セメント(株), アイシン精機(株), トヨタ自動車(株), (株)ヤクルト本社, オリパス(株), 日本製紙(株), 沖電気工業(株), (株)小松製作所, (株)小糸製作所, 三和シャッター工業(株), アマノ(株), 日本精工(株), ハウス食品(株), マツダ(株), 旭化成(株), (株)マンダム, 丸紅(株), (株)三菱東京UFJ銀行, (株)みずほ銀行, 日本生命保険(相), (株)三井住友銀行, (株)常陽銀行, 損害保険ジャパン日本興亜(株), 東京海上日動火災保険(株), (株)京葉銀行, 三菱UFJ信託銀行(株), あいおいニッセイ同和損害保険(株), 第一生命保険(株), (株)横浜銀行, (株)七十七銀行, 三井住友信託銀行(株), (株)埼玉りそな銀行, 富国生命保険(相), 大和証券(株), アニコム損害保険(株), (株)千葉銀行, (株)ジェーシービー, 京葉ガス(株), 全日本空輸(株), 鈴与(株), 東京瓦斯(株)(東京ガス), 日本航空(株), (株)中日新聞社, (株)エヌ・ティ・ティ・データ, みずほ情報総研(株), オリックス(株), (株)野村総合研究所(NRI), (株)プリンスホテル, NTTファシリティーズグループ, 鎌倉市役所, 川崎市役所, 埼玉県庁, 福島県庁, 千代田区役所, 法務省

OB・OGからのメッセージ



新井梨那さん

大手都市銀行

環境経営学と生物多様性のそれぞれの研究会では、仲間と共に準備や練習を繰り返す日々を過ごしました。業務で辛く大変なことがあっても、最後まで諦めずに努力し続けることができていたのは、この日々があったからです。これからの4年間をどのように過ごすかは、自分次第です。自分なりの目標や考えを常に持ち、是非、有意義な学生生活を送ってください。応援しています。



平田真史さん

開発コンサルタント会社

人間環境学部で学んだ4年間では、国際社会における環境問題は勿論、日本の地域問題も積極的に学ぶことができました。私は、途上国のインフラを整備する会社で働いていますが、途上国の複雑な問題を考える上で、学部で学んだ多様な視点・考え方が生きています。何よりも、環境問題を考える中で、「答えのない問題について考え抜く力」が身についたと感じます。



工藤信介さん

三井住友海上火災保険株式会社 (Interisk Asia Pte Ltd 出向)

私の社会人としての基盤は、大学合気道部での激しく厳しい稽古の日々と、卒業までに英検準一級の取得を必須にすると共に継続して勉強する習慣を徹底的に叩き込んでくれたゼミでの経験にあります。特に、ゼミを通して得た学ぶ習慣と学んだ知識が、現在の海外駐在においても活かされています。法政大学および人間環境学部での4年間は、入学時は自分でも想像していなかったほどの貴重な機会を与えてくれました。



松谷絵美子さん

茅ヶ崎市役所

大学時代に「持続可能な地域社会」について勉強していく中で、「まちづくり」に興味をもち、今の仕事を選びました。今は広報で、「まち」を伝える仕事をしています。人間環境学部は、ゼミやフィールドスタディといった様々な機会があり、自分の興味のある分野を見つけて、深められる学部だと思います。きっと貴重な経験ができますよ！

学生活動

仲間たちと作るキャンパスライフ

多様な関心分野と想いをもった仲間たちが集まれば、そこにはエネルギーが芽生えます。誰かに喜んでもらうことが、自分たちの達成感になる！ 学生が自ら作り運営している活動を紹介します。



学生 NGO HaLuz

「東ティモール民主共和国」支援を行う学生組織です。現地での教育支援や双方の国の学生同士の交流会などが主な活動で、人びとの生計向上を目指すフェアトレードも行っています。HaLuzは「光を作る」という意味で、活動を通して両国の学生が成長できるきっかけを作っていければと活動しています。



東ティモールという聞いたこともない国に行ってみたいというのが最初のきっかけでした。みんな明るい顔をしている東ティモールの人の力に少しでもなれればと思っています。
(2年・武正泰史さん)



法政米米クラブ

新潟県上越市吉川区の中山間地域で棚田を借りて活動しています。主な活動内容として、米作りの一連の作業や地区のお祭りや運動会への参加と協力、冬には雪掘りの手伝いなどもしています。また、活動実績として聞き書きや温泉作りなどがあります。



きっかけは農業がやってみたかったから。参加してみて農業以外の魅力がたくさんあり、同時に課題も多くあることに気づきました。少しでも地元の方々の助けになれるように頑張っています。
(2年・若松瑞恵さん)

HAPPY!

CES (千代田エコシステム) 研究ゼミ

CES研究ゼミでは、まちあるき、千代田区主催の環境イベント参加、区立神田児童館での小学生向け環境教育、講演会やエコツアーの企画・運営、エコキャップ回収や菜園活動、エコマップ作りなど、大学の内外で環境配慮を推進する活動を行っています。



神田児童館での活動では、ゲームや工作をゼミ生で考えます。子どもたちが楽しみながら学んでいる姿を見るとやりがいを感じます。
(3年・園部優維さん)



キャンパス・エコロジー・フォーラム 里山班

キャンエコ里山班は、茨城県土浦市穴塚で毎月第4日曜日に活動しています。溜池・田んぼ・雑木林の広がる里山で貴重な自然に触れ、草刈り作業に汗を流すなどさまざまな体験をしています。NPO法人「穴塚の歴史と自然の会」の指導をいただき意義ある活動となっています。



里山での仲間との活動を通して、自然の大切さや農家やNPOの方々とのつながりの大切さを知ることができました。楽しく作業をした後のおいしい「森のご馳走」もうれしい。
(2年・鈴木善幸さん)

SEET (城山高校における環境教育)

私たちは、神奈川県立城山高校の1年生に対して年間2回の授業を行っています。環境問題に関心を持ってもらえるよう、テーマ決めから資料づくりまでひとつの授業を作り上げています。高校生と一緒に、問題解決のために必要なことは何かを考えていきます。



環境問題の見方はとても多様であり、高校生の直感的な一言に気づかされることも多くありました。自身の視野を広げるきっかけになっています。
(4年・若倉義章さん)



オープンキャンパス 学生スタッフ

学生目線の学部紹介トークショーを行ったり、スタッフが作成した「人環のすすめ」という冊子や展示を使って、来場者の方と一対一でお話をしたりと、受験生のみならず私たちの魅力を伝えるため様々な工夫をしながら楽しく活動を行っています。



学部の紹介や私が学んでいることをお話した際に興味を持っていただいたり、入学したいとおっしゃってくださった時はやりがいを感じ嬉しかったです。
(2年・杉村直見さん)

多彩な分野を学ぶ

5つのコースと、それを軸とした幅広いカリキュラム

持続可能な社会づくりに貢献するには、学問分野の垣根を超えた多角的な視野が必要です。私たちの学部ではひとつの分野を柱としながら幅広い教養と発想を身につけるために「コース制」を設けています。

コース制

自身の学習の「軸」を定めるガイドとなるのが「コース制」です。2年次に5つのコースからひとつを選択し、コース共通科目とコースコア科目を履修していきます。学際的教養と高度な問題解決能力を養う広く深い学びの中で、「自分はこのコースにおいて、このようなテーマないし課題を探究して学生生活を送っていく」という方向性を明確にするための制度です。各コースとも定員はなく、登録にあたっての選抜試験も行っておりません。各自の自由な意思に基づいていずれかのコースを選択し、学びの道筋を固めていきます。



ローカル・サステナビリティコース (地域環境共生コース)

ローカルなフィールド体験をベースに、持続可能な地域社会に貢献する実践的な知と構想力を有する人材を育成するコースです。現代のローカル・サステナビリティに関するテーマは、廃棄物や公害、自然保護などの環境問題だけでなく、エネルギー、交通、都市計画、農林水産業、福祉など、都市と農山村の地域づくり全般に及び、またローカルな問題とグローバルな問題の関わりも重要です。そこでこのコースでは、これらのテーマについて最新のケースとともに学際的に探究し、さらに市民・自治体・NPO・企業など多様な主体の役割と協働について学び、将来の「グローバル人材」としての自分を展望します。

グローバル・サステナビリティコース (国際環境協力コース)

幅広い教養と広い視野を備え、国境を越えた思考で地球規模の持続可能な発展に貢献する「グローバル人材」を育成するコースです。国際社会の動向について基本的な知識を身につけながら、学際的な学びとグローバル体験を通して、気候変動(地球温暖化)や生物多様性、平和、貧困と開発など、グローバル・サステナビリティに関わる多様なテーマについて探究します。また、地球社会の行方を左右する新興国や途上国の発展と国際協力、先進国日本の役割、さらに政府・NGOなどの市民社会・企業のパートナーシップのありかたについて学び、将来、自らが「グローバル人材」として活躍する場について考えます。

サステナブル経済・経営コース (エコ経済経営コース)

経済活動と環境保全が調和するグリーンエコノミーの担い手がもたらされる時代です。そこでこのコースでは、持続可能な市場経済に貢献する人材を育成します。経済理論、企業経営の理論と歴史、現代社会における企業の役割について基礎知識を身につけ、その上で、環境配慮型の市場経済と経済政策、先進的な企業の環境経営とCSR(企業の社会的責任)に関する動向に触れながら、企業やその他の事業主体が社会的責任を果たしていくためのマネジメントやビジネスモデル、さらにグリーンエコノミーを支える生活者の消費行動やライフスタイルなどについて探究します。

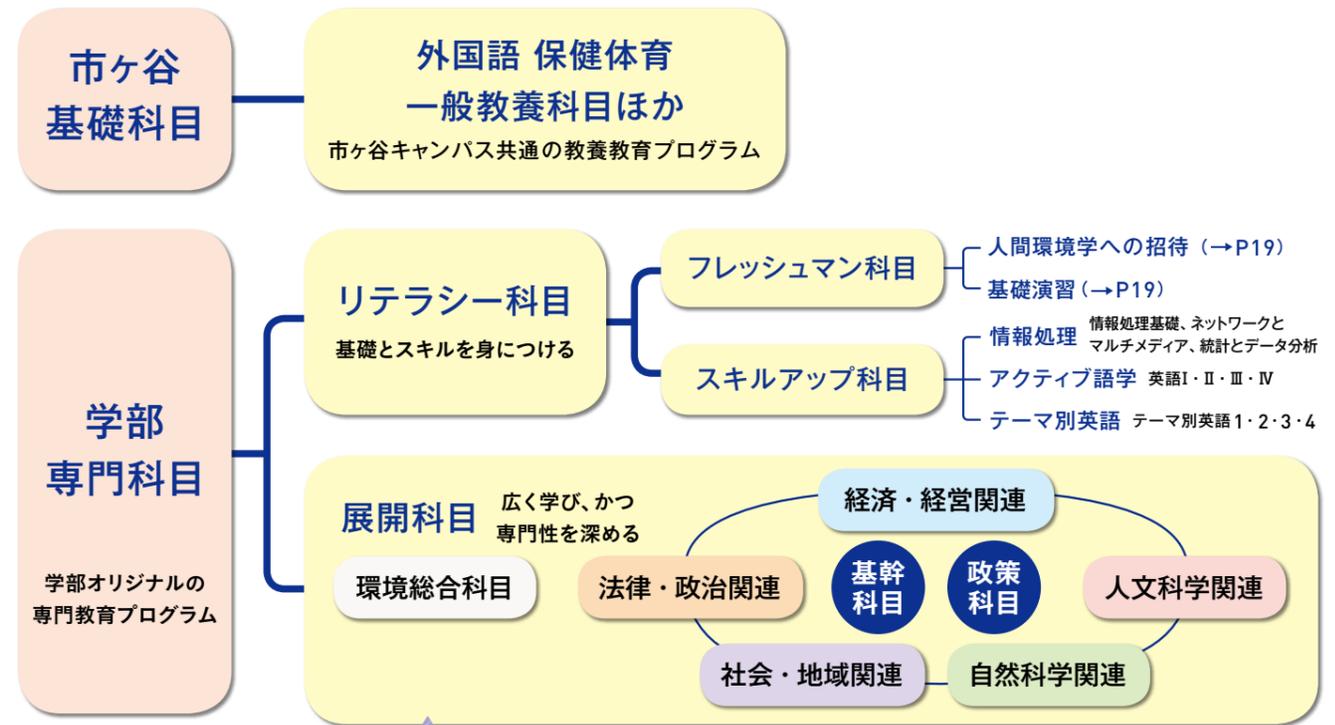
人間文化コース (環境文化創造コース)

人類が持続可能な社会に向かうためには、様々な針路と実践を模索し選択していかねばなりません。その根幹は、数字では表すことができない価値観、幸福感や死生観といった「人間の意思」です。そこでこのコースでは、「持続可能でグローバルな共創社会」に貢献する「市民」にふさわしい知性と感性を備えた人材を育成します。思想・哲学、歴史、文学・芸術、民族、人類学など人文科学をベースにして人間の軌跡と生きる意味を見つめ直し、さらに学際的な学びを通して、将来の人間や文化(衣食住、技術、学問、芸術、道徳、宗教、政治などの生活形成の様式と内容の総体)の行方について探究します。

環境サイエンスコース

サイエンス・マインドを持って持続可能な社会に貢献できる文系の人材を育成するコースです。環境問題の解決のためには、自然環境、災害などの解明や人類に影響を与える科学技術を開発する役割を担う自然科学の専門家、さらに市民をはじめとする利害関係者と対話しながら、多様な利害を調整し、対策について総合的な判断やコンサルティングができる人材が必要です。そこでこのコースでは、社会科学や人文科学とともに、自然-人間-社会のつながりに関する生態学的な思考など、自然科学の基礎教養を通してサイエンス・マインドを身につけ、科学・科学技術と経済・社会・政策の関係性についても探究します。

[学際的教養と高度な問題解決能力の涵養]



展開科目をくわしく見ると...

科目群	基幹科目	政策科目
法律・政治関連	憲法の基礎 行政法の基礎 刑法の基礎 アメリカ法の基礎	民法Ⅰ・Ⅱ 地方自治論 国際法Ⅰ・Ⅱ 行政学 市民社会と政治
経済・経営関連	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 簿記入門Ⅰ・Ⅱ	公共経済学 経営学入門 環境経営と会計
社会・地域関連	現代社会論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 社会統計論 NPO・ボランティア論 フィールド調査論 ファシリテーション論 グローバル・コミュニケーション	環境法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 日本公害史と法 国際環境法 比較環境法
人文科学関連	環境倫理学 生命の現在と倫理 西欧近代批判の思想 仏教思想 日本美術史論 西洋美術史論	労働環境法 アメリカ環境法 自治体環境政策論Ⅰ・Ⅱ 人間の安全保障 地球環境政治論
自然科学関連	自然環境論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 自然災害論 地球科学史Ⅰ・Ⅱ 気候変動論Ⅰ・Ⅱ	環境経済論Ⅰ・Ⅱ 環境経営論Ⅰ・Ⅱ 環境経営実践論Ⅰ・Ⅱ
環境総合科目	食と農の環境学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 公害防止管理論Ⅰ・Ⅱ 廃棄物・リサイクル論	環境社会学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 環境社会学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 環境社会学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 環境社会学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 環境社会学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

フィールドスタディ
(→P2~5)

ゼミナール(研究会)
(→P6~7)

人間環境セミナー
(→P19)

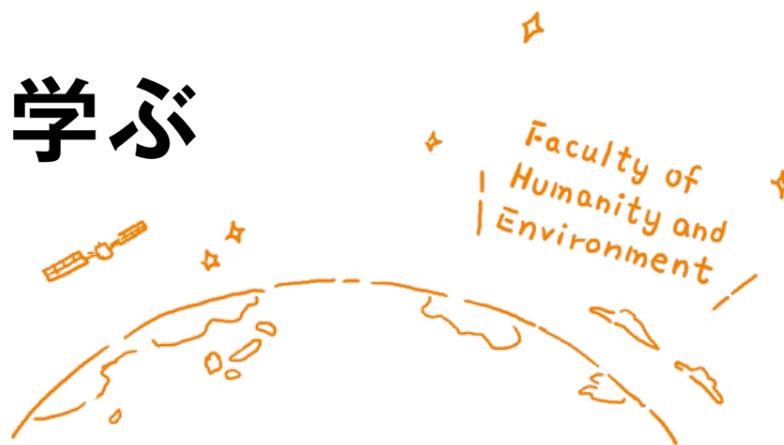
人間環境特論
インターンシップ

研究会修了論文
コース修了論文

より人間環境学部らしく学ぶ

ユニークな学びから、社会が求める人材へ

これからの社会が直面する課題に挑む力を育てるため、私たちの学部では「多様な分野から学ぶ」と「現場と実践に学ぶ」ことを大切にしています。その力を確かなものにするための、学部らしい個性的な学びのいくつかを紹介します。



学部長メッセージ

私たちの学部が目指していることを、おわかりいただけたでしょうか。人間環境学部は人間と環境が、そして人間と人間が共生する「持続可能な社会」を考え、実現するための、幅広い教養と高度な問題解決能力を持った人づくりの場です。皆さんとともに未来を切り拓く創造的な学びのプロジェクトを進めていきたいと思っています。

人間環境学部 学部長 小島 聡



トニカン「とにかく考えてみよう」

東日本大震災と人間環境学部

震災、原発、エネルギー問題・・・わたしたちには何ができるのか？

① 人間環境学特別セミナー

2011年3月11日の東日本大震災以降、日本の社会とそれを取りまく環境は大きく変わりました。人間環境学部では、「とにかく考えてみよう！」(トニカン)という企画をおこなっています。教員、学生、卒業生や一般の方が集まって、ドキュメンタリー映画を題材に、日本や世界のさまざまな問題について知識を広げ、ディスカッションをすることで新しい社会のグランドデザインを描いてこうというものです。トニカンは2011年6月以来これまで12回開催され、合計750人近い方々が参加しています。また、映画制作者や関係者による講演・解説もあわせておこなっています。あなたも、参加してともに議論しませんか。



- ▶『ミツバチの羽音と地球の回転 スウェーデンー祝島 エネルギーの未来を切り開く人々』(鎌仲ひとみ監督、2010年)
- ▶『100,000年後の安全』(マイケル・マドセン監督、2009年デンマーク)
- ▶『内部被ばくを生き抜く』(鎌仲ひとみ監督、2012年) 講演：鎌仲ひとみ氏
- ▶『Nuclear Nation』(船橋淳監督、2011年)
- ▶公開ディスカッション「原発避難を考える」 船橋淳氏(『Nuclear Nation』監督)、市村高志氏(とみおか未来ネットワーク代表)による原発避難に関する公開ディスカッション
- ▶『第4の革命ーエネルギー・デモクラシー』(カール-A. フェヒナー監督、2010年ドイツ)
- ▶『トランジション進行中2.0』(エマ・ゴード監督、2012年イギリス) 講演：加藤俊嗣氏(NPOトランジション・ジャパン)
- ▶『イェローケーキーークリーンなエネルギーという嘘』(ヨアヒム・チルナー監督、2010年ドイツ) 講演：渋谷哲也氏(東京国際大学)
- ▶『ヴィック・ムニーズーごみアートの奇跡』(ルーシー・ウォーカー監督、2011年イギリス/ブラジル) 解説：東孝彦氏(アートナビゲーター)
- ▶『ガレキとラジオ2014』(塚原一成/梅村太郎監督、2014年)
- ▶『マジでガチなボランティア』(里田剛監督、2010年)
- ▶『首相官邸の前で』(小熊英二監督、2015年)

② 震災復興支援特別フィールドスタディ

フィールドスタディの一環として、NPO法人パルシックと提携して宮城県石巻市で復興支援のボランティア活動をおこなっています。



2011年度は3回にわたり瓦礫の片付けやコミュニティ・カフェの運営などをおこないました。2012年の夏からは同市北上町の仮設団地「にっこり団地」を中心に、被災者の農業や漁業の支援のほか、仮設住宅に暮らす子どもたちの遊びや学習を手伝っています。

*参加学生によるレポートを人間環境学部ホームページで公開しています。

③ 震災復興支援関連イベント

NPO法人パルシックに協力して、被災地住民の方と交流するイベントを開催しています。



2011年度には「北上町十三浜漁村復興支援・トーク&ライブ」、2012年度には「東日本大震災復興支援事業報告会ー北上町の今とこれからー」をおこない、被災地の様子や復興の実情を聞くことが出来ました。2013年度にはミニシンポ「福島食と農の再生」、2014年度には公益財団法人ニッセイ緑の財団ほかとともにワークショップ「生業と地域社会の復興を考えるー宮城県石巻市北上町の実例からー」を開催しました。

1年生のための入門学習



人間環境学への招待

1年次の春学期に学ぶ必修科目です。幅広い学問領域から「人間・社会・環境」について総合的に学び、専門性を高めていく、それが私たちの学部がめざす「人間環境学」です。この授業は、本学部でいかに学ぶか、何を学ぶかをガイドする役割を果たすものです。5つのコースの特徴や科目群の構成について各授業担当者が解説し、大学で学ぶための基本的技術について実践的に指導し、あなたを「人間環境学」へ招待します。



リテラシーを身につける「基礎演習」

1年生全員が少人数クラスにわかれて参加するプレ・ゼミナールです。人間環境学部での勉強の基礎を身につけるため、文献・資料の検索方法、プレゼンテーションや文書作成のコツ、論文の書き方などを実習します。また、グループワークや議論を通じてコミュニケーション能力をつけるとともに、お互いに考え方を共有して、まとめる習慣をつけます。2年次以降の学習への橋渡しとなる大切な科目です。

人間環境セミナー「社会の第一線で活躍する人々」



人間環境セミナーの紹介

仕事の「現場」で活躍するプロフェッショナルが、最前線のリアリティあふれる話題を提供するセミナーです。2015年度は「離島講座」「人と自然の出会う場所ー「公園」の活用と課題ー」の2つをテーマに、国や地方自治体、企業、研究所、大学等の専門家を講師にお招きしました。貴重な経験を聞き、いま何が問題で、解決に何が求められているかを学び、感じ、発見し、深めることができました。